

南港市場将来戦略プラン ～アクションプラン(行動計画)編～ 【概要版】

平成 28 年 11 月
大 阪 市

◇ アクションプラン(行動計画)

(1) 市場機能の向上

① 施設整備

ア 基本的な考え方

- 日本一衛生的で品質管理の行きとどいた食肉を提供できる施設づくり
- 購買者のニーズに見合った食肉を提供できる施設づくり
- 災害に強く環境に配慮するとともに、市民に愛される施設づくり

イ 整備基本計画の策定(平成27年度～)

ウ 整備事業費概算(想定) 約149億円(平成28年度時点)

エ 施設規模(柔軟な対応を可能とするダウンサイジングが可能な施設を検討)

設定施設規模 牛:180頭/日(現行 200頭/日)
豚:400頭/日(現行1,000頭/日)

オ 施設配置

牛・豚のと畜解体等施設の完全分離など

カ 有効活用検討地

施設の集約によって生みだした土地について、食肉関連施設などを設置し、南港市場の魅力向上を目指す

◇ アクションプラン(行動計画)

(1) 市場機能の向上

② 集荷力・分荷力の向上

- 南港市場ブランド「プレミアムポーク」の推進
- 産地開拓キャラバン
- 南港市場開催の共励会等の誘致
- 取引ルール等の見直し
 - ・ 売買参加者の承認要件の見直し
 - ・ 相対取引の導入及び活用の検討
- 産地、出荷者等における牛や豚のブランド化への支援対応
- 大規模施設整備による抜本的な衛生環境の向上【新施設稼働により対応】
- 大規模施設整備による抜本的な加工機能の充実【新施設稼働により対応】

③ 市場内事業者の経営体質の強化

- 市場内事業者の経営体質の強化【新施設稼働を目途に対応】

◇ アクションプラン(行動計画)

(2) 市場運営の効率化

- ① 施設整備や民間活力の活用等によるランニングコストの削減
施設・設備の維持管理・運営手法については、指定管理者制度など民間活力の活用を検討するとともに、施設のダウンサイジング等によるコスト削減に取り組む。
- ② 衛生管理経費の確保
ランニングコストを削減する一方で、衛生管理経費を確保(年間約5千万円)
- ③ 施設使用料の改定等による増収策
 - 施設使用料の改定(約20%を想定)
 - 有効活用検討地を活用し収入を確保(年間約3千万円)
- ④ 一般会計繰入金金の抑制
一般会計繰入金を約11億円(南港市場移転整備後30年間における一般会計繰入金金の年度平均24億円の約2分の1)に抑制(整備事業費149億円の場合)